コラム５　子持ちの石冠

昭和五十六（一九八一）年、江南区駒込二丁目の駒込小丸山遺跡の南端部が、水田の再区画整理事業のために削平された。

図一八八はこの時に採集された輝緑岩製の石冠で、縄文時代晩期中葉ころ（約二五〇〇年前）のものと考えられている。頭部が球状になった球頭形の石冠で、左右二か所に小形の球頭部が付いている子持ち形は、全国的に類例がない。表面には精緻な彫刻が施されている。大きさは、高さ八・八センチメートル、球頭部の直径三・九センチメートル、底部の幅一三・六センチメートル、厚さ四・六センチメートルで、重量は三五六グラムである。

図188　子持ちの石冠　個人所蔵

石冠は、縄文時代晩期に東日本に多く分布する石製品である。具体的な使い方はよく分からないが、実用品ではなく、何らかの呪いや祭祀のときに使われた道具と考えられている。この駒込小丸山遺跡の石冠の製作には、多くの時間と根気を要したであろう。

大集落であったとは考えられない遺跡でも、時に、予想できない遺物が見つかることがある。